

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500155		
法人名	愛らひふサービス株式会社		
事業所名	ラ・セゾン		
所在地	大阪府池田市井口堂3丁目10番7号		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族、医療関係者、地域の方、職員同士が協力し合いし、情報を共有し、チームで支援できるように努めています。ご家族とは常に連絡を取り合い信頼関係が築けるよう努めています。また、医療面では管理者が看護師という事もあり、医療の目からも異常の早期発見に努め、系列の訪問看護と連携を図り、素早い対応を心掛けています。そして、職員が一人ひとりの考えや意見を傾聴し、その人に愛とまごころを持って寄り添ったケアを目指して、また利用者様の生活史や、好きなことなどをレクリエーションに取り入れるよう努めています。そして必要に応じて研修を行い、職員全員がスキルアップに努め、事業所の理念でもある「その人らしい暮らし」が利用者様全員が送れるよう施設全体がまとまって取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム ラ・セゾン(事業所)は、愛らひふサービス株式会社(法人)が運営する介護事業の一つで、法人はケアプランセンターから始まり、利用者の要望に応えグループホーム等の開設に至る。事業所は、法人運営のグループホーム2ヶ所の一つで、開設9年目を迎える。事業所は最寄駅から徒歩7分の幹線道路から奥まった静かな住宅地にある。瀟洒な2階建ての1階をデイサービスに、2階をグループホーム1ユニットに使っている。管理者が看護師でもあり、職員に2名の看護師を擁するなど、利用者の医療や健康面での信頼は厚い。職員は開設以来のベテランも多く、利用者に寄り添った笑いの絶えないケアが観察できた。毎月のイベントでは、祭りには手作りの神輿や屋台ができるなど、利用者には懐かしく楽しい行事である。食事も元すし職人が提供し、利用者には好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員みんなで話し合い、地域密着型サービスをふまえた事業所理念を共有し、理念に基づいたケアを実践しています 「その人らしい暮らしを地域と共に愛とまごころでよりそう」をデイルームに掲げています	事業所が、市指定の地域密着型サービスであり、法人の「愛らいふサービス」のネーミングと利用者が自宅と同じ自分らしい生活を続けたい思いを活かし、職員が話し合いの末にたどり着いた事業所理念である。理念は、フロアに掲げられ、月末のミーティングでも思い起こすことで利用者の「その人らしい暮らし」が継続できるようケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染予防の為現在、地域活動の中止などもあり参加が難しい状態です 近隣の高校生より季節のポスターを頂き壁に飾らせて頂いたり、入居者ご家族様の畑で取れた野菜を頂いたりしています 今年は夏祭りもあったが、コロナ感染予防にて参加できず	コロナ禍以前は、地元へのペットボトルキャップリサイクルの協力を通じ季節の花や野菜を頂いたり、地元女子高校のボランティア受入(歌、傾聴、散歩付き添い等)や夏祭り参加などあったが、現在は中止している。高校からの季節ポスターは今でも届き、クリスマスには壁面を飾る予定である。近隣の人に道を訊ねるとすぐに事業所を教えてくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常では運営推進会議の出席を促進したり、病院などで行っている勉強会に参加したりしていましたが、今回コロナ禍の為、これらの活動は差し控えています 今後はズームでの参加できる研修会に参加して行こうと思います	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議も中止していますが、活動記録を市役所地域支援課に報告、民生委員の方々ににも送付しご覧になって頂いています コロナ禍により書面開催としており活動記録報告書は市や民生委員、ご家族にも送付しています	コロナ禍以前は、一堂に会して運営推進会議を行っていたが、現在は書面開催に切り替え、活動報告書を市、民生委員と利用者家族等に送付している。コロナ禍以前の会議出席者は、市職員、地元民生・児童委員3名のほか、時々法人代表者、法人介護施設管理者の参加があった。外部調査が一時途切れたことがあったが、今回は連続3回目となる。	報告書(議事録)の記載事項には、事業所の状況のほか、参加者(利用者家族・地域の方・市職員等)の意見及び要望や事業所としての改善点や次回予定を追記することを望む。また、出席者には、知見を有する者(他事業所の職員など)の参加が会議成立に必須であることから検討を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	池田市のグループホームの会が今までは、3ヶ月に一度ありましたが、コロナ禍にて現在は休止されています 市の地域支援課とは連絡を取り、事故報告などの対応などを相談しています ワクチン接種などの連絡などのやり取りをしています	市の窓口には、運営推進会議報告書や事故報告書等の送付のほか、必要に応じ「ほうれん草」(報告・連絡・相談)を行っている。コロナ禍の現在、府からは抗原検査キットを受け取り、職員や訪問者に検査を実施している。市の介護保険事業者のグループホーム部会(3ヶ月毎に開催)に参加し、有益情報の交換等を行っていたが、現在は休止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で研修を行い、身体拘束の内容とその弊害は全員が認識し、身体拘束適正化検討委員会を設置し、3月に一回会議を開き利用者の人権を守るよう努めている。ご家族へは、身体拘束について説明し十分理解していただき、自由な暮らしを支援するための工夫に努めています	身体拘束の適正化に関する指針を整備し、3ヶ月毎に委員会を開催のうえ議事録の保管や職員の当該研修を年間研修計画に基づき、年2回実施していることが確認できた。身体拘束に関わる事例は現在はない。事業所入口は利用者の安全のため施錠しているが、利用者は職員同行で近隣の散歩に出かけるなど、深刻な閉塞感は見られない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員に、高齢者虐待防止関連法について研修を行い、施設内での虐待が見すごされることがないように利用者の身体状況・精神状況にも注意を払い、また虐待防止検討委員会を年2回行い、職員間で気付くこと、話し合いが出来ることによって防止に努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修を行い、必要時には支援できるようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者やご家族の不安や疑問を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。また重度化に伴う医療費負担についてもご家族と話し合っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時にお話をしています 面会についての要望がありますが、大阪府の通達に合わせて対応していることをお伝えしています	利用者の意見や要望は、日常の寄り添いの中で把握している。言葉での表出が困難な利用者には、表情や仕草で理解に努めている。家族等の意見や要望は、来所時やLINE、ショートメールや電話等による連絡時に拝聴し、必要に応じ職員と共有のうえ運営に活かしている。利用者からは外食の希望が、家族等からは面会制限の緩和の要望が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や大事な決定事項は、現場の職員の意見・提案をミーティングによる聴きとりや個々に面談を行うなど機会を設け、反映させ、活かしています	管理者は、職員と日常頻繁に会話しており、月末のミーティングも含め意思疎通は良好である。法人の管理部長が、デイサービスと2ヶ所のグループホームを統括しており良く機能していることが窺われた。職員の要望は、リクライニングのシャワーチェア導入、レクリエーション(レク)用のボードやたい焼き器の購入、YouTubeの活用など実現例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、処遇改善加算の取得や研修の機会・有給休暇の取得により、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを勧め、技術や知識を身につけていくことを支援しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍であり、池田市グループホーム会や勉強会の活動が縮小されている為、参加していないが研修動画などを取り入れています		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がうまく話しができないことや表現が難しい場合もあります 傾聴することでお困りごとや不安なことを察知し、顔なじみの職が寄り添い対応することで信頼関係ができています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の意思とご家族の意思を傾聴し、相互と話し合いを重ね、関係づくりに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の必要とするサービスをまず見極める為にしっかりと話し合いを行い、他のサービスを含めた対応をしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であり洗濯物を干したり、一緒にできる家事を行うことで本人のできることを増やし、一緒に生活している関係を作っています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ渦で会えないことも多くあり電話などでご家族に状況の報告を行い、近況を知ってもらう リモート面会の機会を持ってもらうようにしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の生活歴を知り馴染みの人からの電話を受けることもあります(個人情報には十分注意します) ・馴染みの職員の対応で生活の安定ができます 	コロナ禍で以前のような家族・知人等の面会や利用者の外食等は、ほぼ皆無の状態である。1階のデイサービスからの移行者も多いが、今はデイの馴染みとも交流ができない状況下で、職員のアイデアによるイベント、レクでの創意工夫やYouTubeでの昔懐かしい歌手に、利用者が元気を取り戻す場面もあり室内での暮らしをそれなりに楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することのないようにデイルームなどではテーブル席の位置を考え移動したり、職員が間に入り関係ができるように促しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切に、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにて本人の生活史など把握し、職員で共有しています 日々の生活の中での関りにより利用者の表情や状態を観ながら日頃との違いを観察し本人本位に出来るように努めています	以前のケアマネジャーからデータを入手しているが、必要に応じ管理者や計画作成担当が出向き本人や家族から思いや意向、生活歴の把握を行う。入居後は居室担当職員が寄り添い利用者の思いや意向を深く把握し、職員で共有している。利用者が言葉での表出が困難な場合は、表情や仕草で場合により家族の助けも借り把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やアセスメント、日常生活の中で観察し、自分らしく暮らして頂けるように、これまでの暮らしの把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々観察、洞察、気づき等、意見を出し合い、みんなで共有し、カンファレンスをその都度行い話し合う機会を設けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・医療と連携し、現状に即した介護計画を作成している。また、本人の状態の変化に合わせ、臨機応変に介護計画は見直ししています カンファレンスやモニタリングを基にご家族様の意向を反映しています	計画作成担当が中心となり、本人や家族、居室担当職員、その他職員、管理者や医療関係者の意見やアイデアを集約して介護計画書を作成している。その後、毎月のモニタリングや3ヶ月毎のサービス担当者会議を経て、通常6ヶ月毎に介護計画書の見直しを行っている。介護計画書は家族に説明し、同意の捺印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、現状に応じたケアの実践・結果・気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策として面会をリモートにしていたが、入居者様の体調の変化に合わせて、ガラス越しでの面会にしたり、食事についても食べられるものを食べられる時食べて頂くようにするなど、柔軟に対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前はお祭りの参加やボランティア・訪問マッサージなどの利用を行っていたが、(現在は自粛している)自粛解除後の再開を予定しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3ヶ所のクリニックの医師がそれぞれの入居者の主治医となり訪問し、体調の変化時スピーディーに対応していただいています	入居時に利用者・家族と相談し、入居前からのかかりつけ医、事業所の協力医かを選ぶことができる。現在は全員が事業所のかかりつけ医(整形外科、内科)の訪問診療(月2回)を受けている。歯科は希望・必要に応じて訪問診療を受けている。受診内容は連絡ノードにより職員間で共有し、家族へは電話等で連絡している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、常にご利用者を観察し異常や変化の情報や気づきを、いち早く職場内の看護師や訪問看護師等に詳しく伝えて相談し、個々のご利用者が適切な受診や看護を受けれるよう支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の対応、また、退院時も病院スタッフとの情報交換を行い、早期に退院できるよう対応しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、段階ごとにご本人・ご家族・主治医等ケア関係者と意向を確認しながら、事業所でする事を十分に説明し、対応方針を共有し、その都度ご家族や医療関係者と連携を図り、共にチームで支援に取り組んでいます	入居時に利用者・家族に看取り対応指針を説明し、同意を得ている。重度化の際には医師から家族に説明し、意向を確認の上、医師、看護師、職員との連携により意向に沿った支援を行うようにしている。研修は年1回、管理者が行っているが、職員の殆どが看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに応急手当・初期対応の訓練はしている。急変や事故発生時は職員・ご家族・医療機関と連携しています。感染防止委員会により研修を行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に利用者の状態に合わせた避難方法を行っています。運営推進会議などで地域の方に協力をお願いしている。水害訓練も(垂直避難)実施しています	年2回避難訓練を行い、直近では5月、夜間想定で1階のデイサービスと合同で行った。不明点を消防署に聞いたところ、後日消防署員が来訪し事業所内での一時避難場所や居室内に残っている利用者の状況を伝えるなど、現状に即した避難・誘導の指導を受けた。水・食料品等の備蓄品は保存食係が一覧管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の表情や言葉をしっかり傾聴し、一人の人としての人格を尊重した声掛けを行い、本人の認知症の状態や身体状況に合わせて対応を行っています	接遇マナー研修は年1回行っている。特に言葉使いに注意し、優しい心と優しい表現でゆっくりと話すことを心掛けている。不適切対応には管理者が都度注意するようにしているが、職員間で注意しあう環境もある。個人情報関連書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、信頼関係が築けるよう取り組み、本人の希望や願いを意図的に引き出すよう取り組んでいる。また、自己決定できるよう働きかけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が望んでいるペースに合わせて動きや状態を見守りながら、一日の過ごし方を柔軟に変え支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好みの服装を選んで頂き、その人らしい身だしなみが出来るように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は元すし職人の方が献立から行い希望に合わせてメニューを柔軟に変更することもあります。また、おやつレクレーションを行っています 片付けのできる方にはお願いしたりしています	近隣で寿司店を営業していた寿司職人が事業所立ち上げ時から調理専門職員として勤務し、献立、買い出し、調理まで行っている。敬老会などのイベント開催時にはバリエーション豊かな寿司メニューに盛り上がりのひと時となる。おやつレクレーションではたい焼き、お好み焼き、ホットケーキなど皆で楽しみながらのおやつタイムとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を観察し、食べる量・カロリー不足・栄養の偏り・水分不足が起こらない様十分に気を付けています。また、食べ物・飲み物の好み・食事形態・食べるタイミングなどにも配慮を行って支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力を把握し、毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めています。また、定期的に訪問歯科で受診していただくようにしています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表より個々のパターンを把握し、時間少し前にそれとなく声掛けトイレ誘導をしています 排泄状況に合わせパットやリハパンの選択をしています 現在布パンツ2名、リハパン2名、おむつ5名、夜間は安眠妨害にならないように4時間おきに確認しています	排泄の自立支援に向けて細やかに対応している。居室からトイレまでの誘導テープを床に貼ったり、トイレの入り口に赤提灯の飾りをつけるなど利用者それぞれに合わせたわかりやすい表示を職員皆で考え、こまめな声掛けを行いながら支援している。年に1回は排泄介助の実技実習を行い、日常ケアを見直し、改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として体操を行い水分補給や繊維質の多い食事を提供しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本とし、利用者に無理強いすることなく、一人ひとりの意向を第一に体調を見ながら、くつろいだ気分で入浴できるように心がけて支援しています 寝たきりの状態であってもシャワー浴を行えるようにリクライニングチェアを利用し清潔で快い状態が取れるように支援しています	リラックスしながら楽しい入浴時間となるよう、利用者の意向を確かめながら入浴支援を行っている。利用者の全身状態も見て職員間で報告し合っている。昇降機やリクライニングチェアを導入し、介護度の高い利用者にも職員にも安心の体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や一日の流れで活動状況・体調など総合的に把握し、適度に休息を持ちながら夜間安眠の為、日中の活動量を増やす支援を行っています。また、日中も疲労の状態を観てベッドで休んでいただけるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用・用法・用量を理解し、呼称・ダブルチェックを行い、服薬忘れや誤薬を防いでいる。本人の状態の経過や症状の変化を観察記録し、医療関係者に情報提供は必ず行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品など気分転換できるよう努めており、それをケアプランにも反映しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の為、以前のように積極的な外出支援はしていないが、天候や利用者の体調に合わせてホーム周辺でフラワーガーデンへでかけるなど近辺への散歩を個々で行っています	外出支援は非常に難しい状況であるが、天気の良い日には個別対応で周辺散歩に出かけている。地域の民生委員による手入れの行き届いたフラワーガーデンは四季の移ろいを感じられ、車いす利用者も楽しむことができる。ワクチン接種は車で出かけ、外出イベントの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、コロナ禍の為、スーパーへ出掛けることは自粛しているが、コロナ前は行っていました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やラインを用いて家族様との会話やオンライン面会を援助しています はがきを家族様宛に書くこともあります		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節のポスターを作って貼るなどして、自分の力でその人らしく安心して過ごせるように、また、危険防止や清潔感に配慮し、生活感・季節感を取り入れ、居心地よく自由に過ごせるよう取り組んでいます。また、ポスターは近くの高校生が季節ごとに持って来て下さっています	居間兼食堂はこじんまりとしており、家庭的で温かい雰囲気である。童謡に合わせて体操を行ったり、馴染みの音楽を口ずさんだり、笑い声も聞こえてくる。壁面には昆虫館の館長をしていた利用者お気に入りのカブトムシの写真やサンタクロースのイラストもある。空気清浄機を置き清掃も行き届き居心地の良い共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時などは静かな空間を提供し、気の合った利用者様同士で積極的にお話できる環境を整えています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで本人が慣れ親しんでいた家具など持ち込みもあり、安全を考慮した配置にして本人が心地よく過ごせるように環境に配慮しています	ベッド、エアコン、クローゼット、扇風機が備え付けで、壁面には家族写真や手作り作品が飾られている。整理筆筒や鏡、化粧品を置き、ミニテーブルや椅子を持参して雑誌を見るなど快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせた、自分の力で動けるよう個別の設備・道具を設置して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるような工夫に努めています		